

ゲツチンゲン市の郵制

三 井 高 陽

ゲツチンゲンの名の古く文獻に徴し得べきものは紀元九五七年ピリンダ伯(Graf Billing)がオット大帝に他の市邑と共に獻じたる證書の中にグチンギ又はグチンギン(Gutingi: Grudingin)なる名を以て記したるに起れりと云ふ其後ライネガウ地方を支配せしノルトハイム伯爵家(Norheim)の最末裔たる女子ケルトルード(Gerrud)がハインリヒ王(Heinrich der Stolze)と結婚するに及び其領地たりしゲツチンゲンも亦ウエルフェン王室(Welfen)の有となれり。註

註 ウエルフェン家は後のハノーバー家にして現英王室の祖なり。

其後ブランシュワイヒ公アルブレヒト大王が其

領土を王子達に分配するや一二七九年アルブレヒト(Albrecht der Feiste)の手にカールンベルグ(Calenberg)と共にオーバーワルド(Fürstenthum Oberwald)の名を以てゲツチンゲンを領するに至れり。

ゲツチンゲン市は當時ライネ領人民の會議地としてゲツチンゲンは常に一年三回各村より人民集り今日存するグロネ門(Groner Thor)は其交通の要門として主きをなせり(一二三〇年頃)。

ゲツチンゲン市の發達は其經路亦他の獨逸都市と例を同じくし組合ギルドが即ち市制(Gemeinde = Vertassung)の基をなしやがて他の都邑と同じく封建の制に従ひ市邑も亦城塞の形を以て發達し防壘を

築き城門を嚴にするに至れり。中世特に十四世紀末に於ては君主(ヘルツォーク)と市民の間に常に不和を生じゲッテンゲンも亦其例に洩れずして市内のバルルツ(Balluz)城其他近在の小城亦人民の爲に破却せられし事實あり實に當時にありては君主の權力全く弱く人民の權力強盛なりき。ゲッテンゲン市民は全く獨立都市(ライヒスシュタット)(Reichs Stadt)の如く君主(ヘルツォーク)の權力に従はず又獨逸帝國議會に代表を送りしこと一五〇〇年の議會決議にゲッテンゲン市代表の署名あることによりて知らる。

一四九五年國內平和法によりて戰禍止み都會は漸く商業都市としての前途を見出すに至れり然らばゲッテンゲンの如きチューリンゲン山間の村邑に何の工業又は商取引ありしやと云ふに當時同市は特産として織物を出し廣く需要ありてノブゴロド(Novgorod)の市(メッセ)には常に送られたり、と云ふ。然れどもゲッテンゲン市孤立にては到底其販路の擴張

を望み得ざるや明にして同市は既に十三世紀に於てハンザ組合(ハンザ)の一員となれり當時伊太利のベニスより來りし商品はアウグスブルグ、フランクフルトを経て北獨逸へ行く大商業線が必ずゲッテンゲンを通らざるべからざりし事實ありこれ同市をして其發達を促したる重大なる原因にして爲に同市は夫がため十六世紀前半に改進せられし獨逸交通制度即ち郵制の利益を享くること大なりき、この頃ブランシュワイヒ、リューネブルグには其地方の專設になるランダスポスト(Landes Post)なるものあり他の侯國と同じくタクシス家(ライヒスポスト)の帝國郵便に對抗し其飛脚及馬車を自領内に入らしめず已むを得ず通過する時には甚だ利己的なる條件を設けて辛じて其通過を許せし有様にしてゲッテンゲンも亦リューネブルグの郵制の恩澤により交通上大なる利便を得たるも一五四六年のシユマルカルドの戰にて敗戦しゲッテンゲンは獨逸皇帝に一萬金

グルデンと六門の大砲を提出するの已むなきに至り且又ブランシュワイヒ公ハインリヒ二世にも罰金を支拂ひ其商業都市としての力を失ひ又ベニスより北獨へ行きし阿弗利加及印度の商品は喜望峰の發見と共にポルトガル人により海路運搬さるゝに至りて交通亦疎となりハンザ同盟員たるも何等の效果なく益々衰退に傾き上に全獨逸に非常なる慘禍を及ぼせし三十年戦争によりて全くゲツチンゲンの商業都市としての生命を絶つに至れり一六二六年チリ(Tilly)大將がゲツチンゲン市附近のミユンデン市を襲ふやゲツチンゲンも亦破壊されしもミユンデン市よりも早く降伏し莫大の恤兵金支出も駐軍地としての自由使用宣誓を條件として兵火を一時免れしも後約に反して兵士の掠奪に會ひ市は全く瑞典皇帝直轄地として五年五ヶ月苦しみしも後ワイマルのウイルヘルム太公の手に移り皇帝直領たるを免れしもワイマル公の支配又却つて

苛酷にして軍人により全市荒廢しこれに次でヘッセンの軍隊亦こゝを荒すに及び全く其都市は滅亡に近きものとなれり當時の童謡に、

皇帝の軍人にしほられて

ワイマル軍隊にしめられて

ヘッセン軍人に吾等を喰ひつゞされる

三十年戦争のため市内の住宅大概空となり住むものは寡婦孤兒と敵軍兵士のみにて全く其存在なきに等しき有様なりしもウエストフアリア條約によりブランシュワイヒリユーネブルグ侯は南獨逸に對する要塞としてこの市を撰び復活せんとせしも及ばず其昔に戻りしは實に彼の有名なるゲツチンゲン大學の設立によりてはじめて實現したり一五七六年ブラウンシュワイヒウオルフェンビュツテル太公ユリウス(Herzog Julius von Braunschweig-Wolfenbittel)はヘルムステットに於て新敎の大學を設け大いに好評を得更に十七世紀初めにブラン

シユワイヒリユーネブルグ兩家の下に置かれ其ユ
リウス公の名を存しユリア(Julia)と稱せり(一六
三五年ウオルフェンビュツテル家は其太公カレン
ベルグ(Corlenberg)の時離脱せり)然れども十八世
紀初に於て多少衰退し當時の新進(一六九四年設
立)のハレ大學に劣りハノーバーの人民にして自
己の領主の下にあるヘルムステットの大學に赴か
ずしてハレに赴くもの多きに及びハノーバー公兼
英國王ジョージ二世は新に大學を設けんとし其候
補地としてゲツチンゲンを選びしも實に其復活を
期するにあり王はアドルフ男爵(Minister Gerlach
Adolf von Münchhausen)に命じこれが實施を命
せり一七三八年開講し百四十八人の大學生を收容
し一七三七年九月十七日王の名を記念しゲオルギ
アオーグスタ大學と命名し開校式を舉行せり。
大學の設けらるゝや其第一に必要な事は定期
的通信施設を創むる事なり。もつとも既にブラウ

ンシユワイヒリユーネブルグ公の時代半官の委託便
あり一六六七年五月十七日附兩太公の名によりて、
「舊來の郵制を改良し」この公文發布されしを見て
も明なるが勿論官用文書を主とせしもの、如し。一
七三六年迄は其遞送は一私人に委託し同年迄アッ
ツェンハイマー(Arzenheimer)に郵便局長ポストマイスターの職を貸
許し同年政府直營とし中央金庫直屬とし郵便行政
は中央金庫郵便委員兼長官(Post Commissair und
post meister)の名を以てシュレーダー(Schröder)
なる人に一任せられたり。この制の定まる迄の郵便
は極めて疎閑にして一週間二回ゲツチンゲンミュ
ールハウゼン間にハイリゲンスタトを経て馬車の
往きしのみにしてこれ所謂サクセン便(Sächsische
Post)と稱しハノーバーの經營にかゝれり馬車便
の他に一週間二回騎馬の飛脚がノルトハイムに赴
き又ミュンデン及ドーグースタツトに往復せしに
止れり。

大學の設立と共に往來通信の繁盛を來し一七三七年ノルトハイムとミュンデンの間に馬車一週二回(最初一回)定期的に開かれしも賃銀問題につきゲツチンゲン市と行先地の領地との賃銀補償につき協商の一七四五年に確立するまで屢々其補償につき争を生じ爲に旅客運送及文書遞送につき其都度賃銀を異にするの不規律なる有様なりしがミュンデンの郵便局總長ヒンニューバー氏とゲツチンゲン市當局と交渉し賃銀を定めたるも未だ安全確實と稱し得ず往々旅客が放外の高率の賃銀を取られ又は文書未着等のことありき。註

註 文書遞送料書狀一通ジュツセルドルフ迄五グロシエン四フエニヒスヘル迄二グロシエン八フエニヒにして當時の物價に比しては非常に高かりしものなり。

然してミュンデングツチンゲンのみならずゲツチンゲンよりチューリンゲンの各都邑例へばオステローデ、ゼーゼン等の間又はブランシユワイヒとの間の賃銀分定につき甚だ煩雜なる問題を生じ

一定の賃銀を定め難かりしものゝ如し。

郵便局長ポストマイスターに對する報酬は當時の物價及他官公吏の俸給によりて參酌規定せらるる其年給は二百ターラーにして別に家賃として百ターラー及書ホストシュユライパー記に對し百二十ターラーを給す。註

註 書記は終身官にして任免は局長の權限に屬す。

然して郵便局長シユローデルは驛長(Posthalter)を兼ね四頭馬車一ケ年百ターラー(この法はザクセン式計算法と稱す)の報酬と車輛に付四十八ターラー馭者の制服料十二ターラーを加へらるそののみならず右成規の定期的收入の他に局長はエキストラポガト急使エキストラポガトと新聞配達料を收入とせり(ゲツチンゲン市内は郵便通信郵税を免す)。

當時如何なる程度に通信ありしか一七三七年一月には五千通の郵便到着にしてこれは當時としては稍尠きに失す其原因とする處は郵便法第五條によりて禁止せられたる所謂私營のモグリ郵便に

よりて妨げられしものにしてこれを Neben Post と稱す。かゝるモグリの私便の行はるゝことを防がんが爲一七三六年十一月ハノーバー市長と裁判所と協約しこれが撲滅を期せり。

一七三六年九月一日より一七三七年十二月迄の十六ヶ月間の収入の計算によれば二四〇八ターラー支出二三八七ターラーにして超入二十一ターラーに過ぎず其翌年一七三八年は五三一ターラーの支出超加となり郵便經營は益々困難となり加へて一七三九年に於ては大學の爲に印刷屋本屋の郵便を免税し收入激減し同年サクセン侯の馬車便は其線を延ばしハノーバー郵便馬車が今迄經營せしノルトハイムを侵して舊來のサクセン侯郵便線たるハイリーゲンスタットを通らずノルトハイムよりシヤルツフェルド、ノルトハウゼンを往來し大いにハノーバー郵便に打撃を與へたり。この線は一八五〇年迄續きたり(一週二回往還)かくてハイリ

ーゲンスタットとゲツチンゲン間の往來絶え一七四九年再び一週一回の馬車便を開き各地の郵便線の連絡を始む當時の主なる馬車便は左の如し。

(1)Göttingen-Heligenstadt (Duderstadt經由)1739年迄
は Uslar 經由)

(2)Göttingen-Witzenhausen-Eisenach-Jena (一七三九年以來經營す、其經營はカツセルに於ける瑞典王へツセン侯立カツセル郵便役所の手になれり一七四一年廢止)。

然してこの頃に及び交通及通信の増加を來すべき原因の發生を見たるは實にゲツチンゲン大學の擴大なり、此大學はハノーバー以外の他邦人の來學する者急に増加したるはゲツサウとアンハルト大侯の強制徵兵制を忌避しハレ大學より大舉ゲツチンゲン大學に轉籍する者ありしと當時有名なる教授が揃ふてゲツチンゲンに在りしを以て名聲頓に擧り天下の學徒を集めしによる當時の教授には

神學のモスハイム男爵、法學のバーマー哲學のミハエリス其他の名學者悉くここに集れり。

大學の學徒の爲に特に交通施設の設けらるべきこと試みられ一七四八年ゲツチンゲンエナ等を連絡して郵便の連鎖を試みんとする私設馬車便を作らんとし大學とシローダーとの間に「ウニバジリワウゲン大學馬車」を開きシーフエルト(Siefert)なる人をして一週一回ゲツチンゲンとランゲンザルツア間に馬車便を作らしめ一ヶ月十二ターラーの補助金をシユローダーより給し其監督に従はしむることせしも事志と違ひ一ヶ年にして失敗の結果廢止せられたり。

一七五〇年局長の收入を四百ターラーとし書記を百二十五ターラーの俸給とし馭者には十二ターラーを給し大いに其組織を更め旅客亦増加し同年の超入一九〇六ターラーに及べるも七年戦争の爲に又々其制を破壊されヘツセカツセルランドグラフ領主たるウルヘルム三世は一七五七年其領土をフランスに奪は

れ尋でゲツチンゲン亦フランス軍の爲に侵されしも占領軍は大學に對しては毫も其神聖を傷けざりしも勝敗常ならざる佛獨兩軍の戰場にあたりしゲツチンゲンは兵火を蒙りしのみならず一七六〇年には御用金の取立によりてゲツチンゲンは極度に衰へたり、當時の佛將ドボー(Ge Baux)を揶揄する流行唄に „Nomen habet vitui' sed gestat cornu tauri.” と云ふもの流行せり其義は「其名は小牛(Baux)でも牡牛の角がある」と、以て如何に峻嚴なりしかを知るべし然も一七六二年七月十六日の佛軍撤退に際しての暴行及び翌日又々佛軍の歸來により市内全く荒廢し郵便收入は戦前に比し一三〇〇ターラーの急減を示せり以下現存せる文獻によりて其收入の増減を抄算するに、

一七五七年 郵便収益 六七四ターラー

(侵入ラウケタル年)

一七五八年 同

五八四ターラー

(御用金等ニテ財力乏シキ年)

一七六〇年 同 五七一タラー

一七六一 年 同(損失) 二三五タラー不足

(補助金ヲ要セリ)

一七六一年局長シユローダー歿し其跡を未亡人經營し其後其子これを受けたり。

この戦争によりてゲツチンゲンの軍事的要塞としての價値を失ひ廢塞となり單に駐兵舎を殘すに止り平和的交通施設發達に貢獻する處ありハノーバーガツセル、ウイツツエンハウゼンへの大街道完成し郵便純益亦大いに増加せり。

一七六二年 收入 四八タラー

一七六三年 同 一一一〇タラー

一七六四年 同 四二五〇タラー

一七六五年 同 四八三八タラー

然るに一方大學の發展と其學生増加に伴ふ交通及通信の増加に對する郵便制度の未だ充分ならざると交通通信の容易簡便が亦大學發展の助となる

べきことを認めたる結果郵便法に手心を加へ不完

全なる現在の官營郵便の補助として原則としては

禁せられある私營郵便を認むることとし一七六八

年六月二十二日樞密院令(Verfügung des Geheimen

Raths-Collegium)を以て從來密にゲツチンゲンゴ

ータ間に往來せし書狀小包の運搬をせられし事あ

るに鑑み郵便局長をして大學生及教授の爲にゲッ

チンゲン及チューリンゲン間の往來の特許を認め

しめ局長をして監督せしむ。この特許は一七九二

年九月條令を以て廢さるゝ迄存在し實に二十四年

間所謂モグリの郵便(Neben Post)が公許されたり

これ全く官營の郵便が交通網を充すに力足らざる

ことを裏書きしたるものにしてこのモグリ郵便は

到る處に存在せしものの如く一七七〇年に於て郵

便局超入は前年に比し、三〇五タラー減少したり

これハノーバー及ミュンデン間の私營馬車便の影

響なりと傳ふ。然して十八世紀末はゲツチンゲン大

學の最も華かなる時代にして Heimbund 等の組織せられて幾多の詩人を出したる時なり一七七四年郵便馬車の大いに改良せらるゝありカツセルハノ一バー間に大型の有蓋馬車を設け一七七五年六月二十六日にはエルフルトの帝國郵便管理局 (Kais. erlichen Reichs-Postdirektion in Erfurt) 布告にてエルフルトよりゲツチンゲンに至る直通郵便毎週火曜エルフルトを出で木曜晝ゲツチンゲンに着す然れども當時其速度遅くために急を要する人は密にモグリの馬車を利用せりと云ふ。註

註 當時の有名なる諷刺文學者リヒテンベルグ氏は嘲笑して曰く。

「英國の馬車には Flying と戸に書いて其迅速を示し西班牙の馬車には Seguridad y celeridad (安全と迅速) と戸に書いてり獨逸の馬車には何も書かねはつゝまり約束に拘束せられず自由と放縱を得る最も利口なやり方だ」云々。

其他道路の凸凹を酷評したるもの等二三に止らずこゝには繁を避て略す。

其後郵便制度は大したる發達なく一進一退新線

の改廢屢々ありしも十八世紀末まで見るべきものなかりしが十九世紀初めに至り局舎の増築馬車の改良吏員の優遇を餘儀なくせられ一八〇三年ゲツチンゲン、ハイリゲンスタット間の一週二回の馬車便を始めし頃より往來繁く馬車も當時より優良なる Dalgemein 型を用ふるに至れり一八〇六年十月のエナの大會戰に於て普魯西の敗北せしことはゲツチンゲンの屬する王領も亦ヘツセン、ハノーバー、ブランシュワイヒ等の各領土の一部分と共に新にウエストフアリア王領となり一時軍國の變態的發達の下に郵便も亦特殊の發達をなせしもナポレオンの仆るゝや又再び獨逸流の郵便制度に戻り一八三四年電信の架設によりて其文化的都會への第一歩を踏み出し更に一八六七年鐵道の開通と共に優雅なる郵便喇叭の音を絶ちぬ。

考へれば獨逸幾多の小都邑其數少なからざれどもゲツチンゲンの如きけだし大學都市として特殊の發達せしもの他に其例少なからん。

(昭和三、八、於メルゲントハイム稿)